

Ⅱ 国語科の問題と 結果・分析

1 出題のねらいと評価

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 国語への関心・意欲・態度 |
| 2 | 話す・聞く能力 |
| 3 | 書く能力 |
| 4 | 読む能力 |
| 5 | 言語についての知識・理解・技能 |

大問・ 領域	小問	設問のねらい	評価				
			1	2	3	4	5
1 読むこと (説明的 文章)	問1	問い掛けの文に注目して文章の展開を読み取ることができる。				○	○
	問2	文章の叙述に即して内容を正確に読み取ることができる。				○	
	問3	非連続的テキストを正確に読み取ることができる。				○	
	問4	中心となる語をおさえて要旨をとらえることができる。				○	
	問5	事象と感想、意見とを読み分けながら説明内容を正しく理解することができる。				○	
2 言語事項	問1	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年の漢字に配当されている漢字を漸次書くことができる。					○
							○
							○
	問2	表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けることができる。					○
							○
	問3	副詞の意味や用法に注意し、文の中で適切に使うことができる。					○
3 書くこと	問1	事柄を選び、観点ごとに整理してから文章を書くことができる。			○		
					○		
					○		
	問2	事象と感想、意見などと区別して文章を書くことができる。	○		○		○
	問3	主題や要旨が明確に表れるように文章を書くことができる。	○		○		

2 正答と主な誤答例

大問・領域	小問	正 答	主な誤答例
① 読むこと 説 明 的 文 章の読解	問1	では、この絵本は、どのようにしてできたのでしょうか。（完全正答）	・ この絵本はどのようにしてできたのでしょうか（では や 、 。 がない） ・ 何から作られるか知っていますか。 ・ 木を切る量をへらすことができるでしょう。 ・ 紙が何から作られているのか。どのようにしてできたのか。 ・ バナナのくきを使って紙を作ることはできないか、ということ ・ 現在世界で使われている紙の量は、年間約二億トンです。
	問2	ウ	ア
	問3	ウ	イ
	問4	木を切る量をへらすことができる (15字)	ハイチの国も豊かになるでしょう バナナ色のとてもきれいなせんい そのくきの量は十倍近くあります
		ハイチの国も豊かになる (11字)(順不同)	質のよい紙ができること バナナのせんいを集めて すてられるバナナのくき バナナの紙を原料にする 木を切る量をへらすこと 新しい産業が生まれれば
	問5	ア	ウ エ
		イ (順不同)	
② 言語事項	問1	(1) 季 (節)	委 機 木 希 紀 義
		(2) 協 (力)	
		(3) 借 (りる)	貸
	問2	(1) ア	ウ
		(2) ウ	イ
	問3	(1) ウ	
		(2) オ	
		(3) イ	エ
③ 書くこと	問1	ア	
		ウ	
		オ (順不同)	
	問2	(略)	
	問3	ウ	ア エ

単位：%

大問・領域	小問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校の正答率
1 読むこと 説明的文章	問1	右の文章には、問の文が二つ書かれています。二つ目の文をさがし、書きぬきましょう。	では、この絵本は、どのようにしてできたのでしょうか。	/	52	
	問2	木(木材パルプ)からではなく、バナナのくきから紙を作ることができるのはなぜですか。説明されていることを、次の中から一つ選んで、その記号を口の中に書きましょう。	ウ (バナナのくきには、紙のもとになるたくさん のせんいがふくまれているから。)	78.6	75	
	問3	グラフ2から読み取れることがらはどれですか。一つ選んで、口に記号を書きましょう。	ウ (日本が紙を使う量は、 毎年増え続けていま す。)	/	82	
	問4	バナナのくきから紙を作ることができる と、よいことが二つあると筆者は述べて います。15字と11字で、よいことをそ れぞれ書きぬきましょう。	木を切る量をへらすこ とができる	79.5	64	
			ハイチの国も豊かになる		57	
	問5	筆者の森島さんが、最後の段落で、自分の考えを分かりやすく説明するために工夫していることを次の中から二つ選んで、それらの記号を口の中に書きましょう。	ア・イ (順不同)	90.7	81 74	

(1) 結果の概要

●問1について

○他の設問に比べて正答率が52%と低い結果となった。誤答は多様で無回答も多い。

説明的な文章を読む際に、どのような話題が提示されているのか、どのような文章構成になっているのか等、基本となる読み進め方が定着していないことが伺われる。

○誤答の中に、文章を書き抜いていないものも多く見受けられる等、設問自体を正確に読み取ることができていないことも正答率の低い原因となっているように見受けられる。

○同様に、教科書では「疑問、ふしぎに思うこと、問だい」などの表現を使うことが多く、「問いの文」という表現が理解できていない児童が多い。

●問2について

○正答率75%と、概ね良い結果となっているが、その中でアという誤答が目立つ。文章の内容を正確に読み取ることができていないことや、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読み進めることができていないようである。

●問3について

○グラフから読み取る問題である。正答率82%と、おおむね良い結果となっている。

○社会科等の学習との関連から、グラフと表題からその結果を正確に読み取る力が定着してきている様子が伺える。

●問4について

○字数を決め、書き抜くという条件の設問であったが、正答率が60%前後と低い結果となった。

正答である「よいこと」2点は、最終段落にまとめられているが、誤答はまったく異なる段落に分散している。文章全体の構成を捉え、どこに何が書かれているか見当をつけることができていない。

○「バナナのくきから、なぜ紙ができるか」を答えている児童も多く見受けられ、問題を正確に読み取り、正対することが、今後の課題である。

○接続詞の前後の文章の関係を捉えることができていないことも、正答率の低い結果となった要因のひとつではないかと思われる。

●問5について

○正答率約80%と、おおむね良い結果となっている。事象と意見の関係を捉えながら読み進めるということが、おおむねできているように思われる。

(2) 指導のポイント

説明的な文章を読む際には、段落を構成表に表して把握しながら読み進めたり、中心になる語を押さえて要約したりする等、内容を的確に押さえながら要旨を捉えることができるように、留意して指導する必要があるように思われる。

また、文末表現を手がかりに、文の意味を正しく捉えたり、問題提起の文、事実を述べている文、考えを述べている文の見分けができるようにさせたりしていくことも重要である。

目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読んだり、グラフや表など、非連続的なテキストを読み取ることを総合的な学習の時間をはじめ、各教科の学習と関連付けながら指導していくことも大切である。

単位：%

大問・領域	小問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校の正答率
② 言語事項	問1	(1) き 節のたよりがとどく。	季	/	76	
		(2) きょう カして仕事をする。	協	83.1	93	
		(3) 図書館で本を か りる。	借(りる)	/	68	
	問2	(1) ア まつり イ まゆげ ウ まほう	ア	* 91.9	84	
		(2) ア フルーツ イ ふるさと ウ プール	ウ	* 46.5	38	
	問3	(1) () 食事のしたくを始めよう。	ウ(そろそろ)	* 96.7	92	
		(2) 古い時計が() こわれてしまった。	オ(とうとう)	/	91	
		(3) () 何が起こるのだろう。	イ(いったい)	/	91	

*は類似した国研の問題の正答率を表す。

(1) 結果の概要

●問1について

- (2)の協力の「協」はの正答率が非常に高い。これは、日常生活において、よく読み書きする言葉であるためと考えられる。
- (1)については、比較的正答率が高いが、形が似ている「委」の誤答が若干見られる。
- (3)は、「貸」との誤答が多く、「貸す」「借りる」の言葉の意味をあいまいに捉えている児童が多いためと考えられる。

●問2について

- (1)の正答率が84%と高く、国語辞典が五十音順に配列されていることは理解されている。
- (2)は正答率は38%と、かなり低い結果となった。誤答はイが多い。
前年度の調査結果と同じように、半濁音や長音、カタカナが混じると正答率が低くなる傾向がある。

●問3について

- 正答率が各問ともに90%を超え、副詞の用法はおおむね良好といえる。
- 誤答例として、記号で答えず、言葉を書き込んでいる児童が見られた。調査問題のような形式に慣れていないのか、問題を注意深く読んでいないのか、いずれにせよ、言語に関する理解以前の課題と思われる。

(2) 指導のポイント

新出漢字の指導や熟語の指導の際には、漢字一つ一つがもつ意味や、その由来について確認していく必要があるように思われる。

漢字の成り立ちや同音異義の漢字について、新出漢字を学習する際や、漢字の広場の学習の際に、より充実させて確認する必要があるように思われる。

長音や濁音、半濁音になると、日頃辞書を使う機会が少ないため、今回の調査のような低い正答率になっているのだと思われる。辞書の引き方が定着していない現状の現れである。早急に国語辞典や漢字字典を引けるような環境づくりも大切である。最近は電子辞書の普及もあり、特に小学生用の国語辞書をそろえてがない家庭もあるようだが、せめて学校図書館には学級の人数分の国語辞典をそろえて必要に応じて学級に貸し出したり、卒業時に不要になった国語辞典の回収を呼びかけ、リサイクルを図るのも良いのではないだろうか。

昨年度同様、国語辞典を日頃から使う習慣をつけたり、ゲーム的な要素を取り入れたりしながら語彙を増やしていく必要がある。また、漢字指導の際に同音異字や漢字の成り立ち等にも触れ、興味を喚起して漢字の定着を図る必要がある。

日頃使っている漢字は、読み書きできる。漢字を使わせるために日記や自由作文など、書く活動を効果的に取り入れることが大切である。たとえば、日記や自由作文の最後に、いくつ漢字を使ったか、その数を口に書かせるだけで、児童は意識して漢字を使うようになるものである。楽しみながら工夫して漢字を使うようになるよう働きかけてほしい。

単位：%

大問・領域	小問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校の正答率
③ 書くこと	問1	この招待状の「お知らせ」のらんに、他にどのようなことを書いたらよいでしょうか。次の中から必要なものを三つ選んで、その記号を書きましょう。	ア（雨天の場合について） ウ（受付場所などの会場案内について） オ（開始時刻について）	* 79.9	93 88 91	
	問2	運動会について、お世話になっている地域の方に一人ひとりが手紙をそえて招待状を出すことにしました。招待状をもらった人がぜひ運動会に行きたいと思えるような内容になるように、次の注意①～④を読んで手紙を書いてみましょう。 【注意】 ① 後ろの〔書くための材料〕の内容から選んで、書きましょう。 ② 文末を敬体（「～です。」「～ます。」）にして書きましょう。 ③ 五年生が出場する種目と、練習でがんばってきたことがよく分かるように、書き出しの文に続けて百字ぐらいで書きましょう。 ④ 読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり、行間に書き加えたりしてもかまいません。 〔書くための材料〕 ◎ 五年生の出場種目・・・八十メートル走 学年リレー つなぎき ◎ 係活動では、六年生と協力して準備をした。 ◎ 運動会の終了時刻は二時三十分ころの予定 ◎ 九月の暑い中、思いっきり走ったり、つなを引っぱったり、バトンパスの練習をしたりした。 ◎ 昼食は教室で弁当を食べる。		78.8	62	
	問3	招待状の一番上の見出しの部分に、地域の方に向けた言葉を入れたいと思います。次の中から最もふさわしいものを一つ選んで、その記号を口の中に書きましょう。	ウ （運動会におこしく下さい）	80	69	

*は類似した国研の問題の正答率を表す。

(1) 結果の概要

●問1について

○正答率が90%を超え、おおむね良い結果となった。書く必要がある事柄を目的や相手等を意識して選択することができているといえる。

今後も全体を見通して書く必要のある事柄を整理する能力を身に付けさせていくことが大切であるように思われる。

●問2について

○正答率が62%と、低い結果であった。昨年度の同様の設問が54%の正答率だったことを考えれば、高くなっているともいえるが、誤答を見ると昨年度の調査と同じく、条件に対して不必要な内容があり、反面、必要な内容が不足しているものが多かった。

設問を正確に読み取れていないことや、必要のない内容を入れたことにより、必要な内容が書ききれなかったことが低い正答率につながったのではないかとと思われる。

○書くべき材料を選ぶことはできていたが、一文ごとに行変えをしてしまう誤答が多かった。招待状や手紙という様式に慣れていないためか、作文用紙の使い方そのものを理解していないためか、いずれにせよ、様々な文章を書く活動は、今後の授業において効果的に取り入れる必要がある。

○材料の羅列になっている児童が大変多い。書く目的に合わせて、必要なこと、中心になる事柄を決めて書くことが難しいように思われる。出来事の羅列は普段の作文でも多く見られる。

○五年生の出場種目について書いていない児童も複数見られた。代わりに係り活動について書いている児童も多く、問題文をよく読んでいない様子も同える。

○注意には書いてないが、結びの文は入れたほうが良い。ぜひ運動会に行きたいと思えるような招待状にするには、結びの文を入れて完成させるべきと考えるが、そこまで書けた児童が少なかった。

●問3について

○アを選ぶ誤答が目立った。敬語についての体験や知識が少なく、正答にあるような「おこしく下さい」といった言葉は日頃使わないためであろう。

○正答率が69%と、やや低い結果となった。相手意識を明確にもち、目的や意図に応じた記述ができるように、総合的な学習の時間をはじめ、他教科との関連も図りながら指導していく必要がある。

(2) 指導のポイント

書く事柄を整理して、自分の意図するところを相手に的確に伝える能力が定着していないように思われる。今回のような手紙文という文章を書く機会が少ないことも、正答率が低い原因になっていると思われる。

文章を書く際には、目的意識や相手意識を明確にして書く事柄を整理する活動を確実に行わせていく必要がある。さいたま市の国語力向上プランも意識しながら、効果的に書く活動を取り入れたい。

書く事柄を適切に取捨選択したり、整理したりする能力を育成するために、各教科の学習指導とも関連させて指導していくと共に、必要な情報を得るために効果的な読み方を工夫できるように併せて支援していく必要がある。

また、書写の時間も活用して様々な様式の文章を視写させ、違いを意識させると共に、自分でも書いてみる活動を繰り返し行うことも必要である。

4 まとめ

【調査結果の概要】

<全 体>

- 昨年度の調査結果と比較し、全体的に正答率は良い結果となっている。また、問題数や問題の配列を吟味して作成した成果か、昨年度に比べ無回答が減った。
- 記述問題に関しては、正答率が依然として低い。
- 内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えながら読み進めたり、全体を見通して書く事柄を整理することに留意していく必要があるように思われる。

<読むこと>

- 文章全体の構成を意識しながら読んでいない傾向が見られる。また、設問の意味を正しく理解していないための誤答が目立った。
- 文章を注意深く読むことについて能力差が大きい。
- 文章全体や段落の内容の中心をとらえることや、段落相互の関係や構成について考えながら読み進めることが定着していないようである。

<書くこと>

- 昨年度同様、文章を記述する設問で正答率が低い。
- 目的や意図に応じて書く事柄を整理し、適切に取捨選択することができていない傾向が見られる。
- 限られた時間や字数で書くことに慣れていない。

<言語事項>

- 配当漢字の習得は、概ねできている様子である。特に生活に即した言葉は漢字で正しく読み書きできている。
- 国語辞典の使い方については、昨年度に引き続き継続した指導が必要であることを伺わせる結果となった。

【今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点】

- 昨年度に引き続き、「読む力」を伸ばす必要性が感じられる結果となった。
説明的な文章を読む際には、文章構成を図に表したり、要約したりすることによって、文章構成について意識付けをする。
また、限られた時間内での速読、短作文、国語辞典の活用等、繰り返し行うことによって正確に読む力を定着させたい。
- 目的や意図に応じて書く事柄を整理・取捨選択し、伝え合う学習活動の場を設ける。
- 書くことに関する指導については、目的意識や相手意識を明確にもたせた上で、条件にあった記述ができるように、各教科とも関連させて、より一層充実させる。